

風 韻

第16号

(一九七六年度)

神戸大学風韻会

風 韻 第 1 6 号 目 次

◎ 五十年の体験(その九) -----	師匠 宇治 正夫 -----	1
◎ 一ッの願い -----	会長 荒川 祐吉 -----	2
◎ 先輩登場		

東京風韻会発足のお知らせ

-----	昭31年	里井 三千雄	4
風韻会の思い出 -----	昭45年	中島 克己	4
記念謡会のこと -----	昭40年	段野 治雄	5

◎ 風韻会の部室状況 -----	編集部 -----	6
◎ 誌上研究室		
初めの舞囃子 -----	P25 田中 恭子 -----	8
能舞台 -----	P26 飯田 寿子 -----	8
仕舞の型について -----	P26 中井 ますみ -----	9
能 -----	L26 田中 明子 -----	9
サシ謡にも申す -----	T26 山岸 国夫 -----	9
舞囃子の地謡を終えて -----	M11 児島 新 -----	10

◎ 学年のページ		
一年生のページ -----		12
二年生のページ -----		14
三年生のページ -----		15
四年生のページ -----		16
◎ アンケート報告「風韻会の実態」	神戸大学アンケート調査委員会 -----	18
◎ 自由投稿		
ばやし -----	草 太 郎 -----	22
*75スキーツアーだより -----	法学部のたかし君 -----	22

◎ 50年度活動報告		
幹事学年を終えて -----	幹事 六名 -----	24
◇ 決算報告 -----	会計 広野 勢津子 -----	25
学連に出て -----	P26 松本 恵子 -----	26

◎ あしあと 昭和50年度		27
◎ 幹事長就任にあたって -----	J26 今井 基博 -----	28
◎ 新役員紹介 -----		28
◎ 昭和51年度主要行事予定 -----		28
◎ 名簿変更通知 -----		29
◎ 風韻会名簿 -----		30
◎ 伝言板 -----		31
◎ 編集後記 -----		32

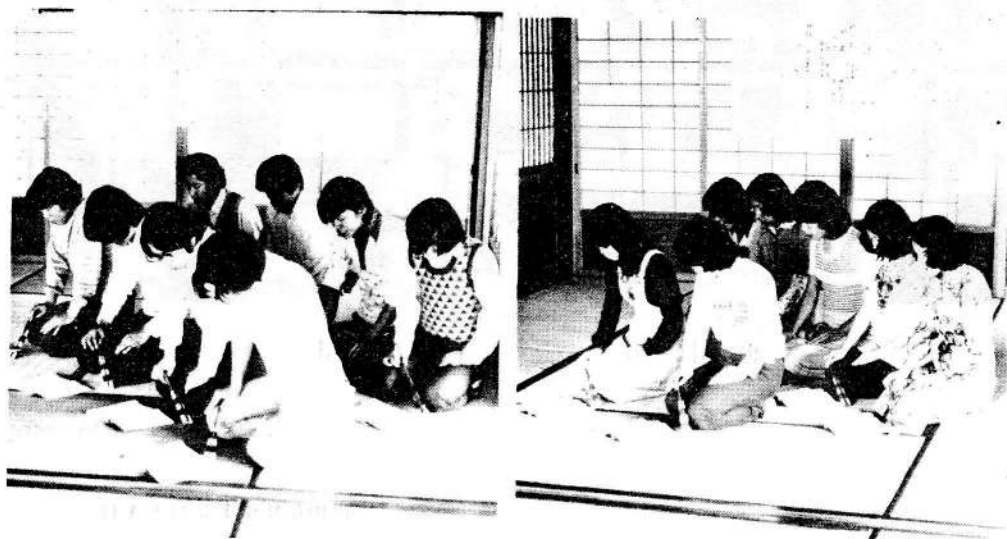


夫正治宇……町小通

昭和50年12月14日



昭和50年歡送謡会（於 神大学館ホール）



新入生・2年生 Jr 合宿（於 天上寺）

不動の心を求めて

師匠 宇治正夫

「○○ちゃん遊ぼう」と近所の子供が誘いに来ると、誘われた子供は機嫌の良い時は直ぐに応じて無邪気な遊びを始めるが、機嫌の悪い時には「イヤ」と云って取合わない。すると、誘いに来た子供は何も云わずやがてスゴスゴと帰って行く。自然の心のまゝで誠にうらやましい情景である。これが段々と生長して行くにつれて、そう簡単には行かなくなる。その人の性格や環境の為に、主義主張が異なり、自分こそ最も正しく勝れたものと信ずる事により、またこれに同調する人も集って大きな争いにもなる。これは中々治まるものではない。

個人の場合でも、或る人を好きになり相手も共に思いつめて、所謂恋愛相思の場合は、その相手こそ三國一の人と思ひ、命を捧げても良いと思うのが当然であるが、ふとした事から心が変わり、相手を殺すに至る事も往々にしてある事を思うと、人の心ほど頼もしくも

あり、またその変化程恐ろしいものは無いと思われるのである。

「心頭滅却すれば火もまた涼し」と、従容として我身を焼いた名僧の心境は、我々凡夫の及びもつかぬ事であるが、如何なる場合でもサッと自分の氣持を変えることが出来たら、そして理想の夢の中に飛遊する事に依って、いとほしい（？）現実を離れることは此上もない快事ではありませんか。例えば恋重荷の荷は、衣を以て包んだ形だけの美しい荷であって、これを持上げるのは道作もない事であるが、全身の力を入れ、心をこめて持上げようとしてどんなに努力しても持上げられない。観衆にも、それがハッキリと感じられるのが芸術である。月は一つ。影は二つ。と、いつでも美しい月を見る鐘の音、虫の声を聞き、人にも感じさせるのが修業であり、楽しい夢の世界である。精神統一、健康の為に理想に近く、不動の心を求むる道であると信ずる。

会長 荒川祐吉

現役教官で、かつ宇治風韻会社中ということで、前会長藤井茂先生から、会長というとなんでもない榮譽を引継ぎましてから、それでももう数年経ってしまいました。いつも年が明けると早々、風韻の原稿を書く責務が、会長というだけで、まわってきます。専門関係の論文執筆は、あまり苦にならないのですが、いつまでたっても進歩向上のとはしい謡の関係で、私のようなものが何かを書き、それが多数の先輩・学生の方々の目に触れるということは、内心誠に不愉快な気持ちをして、そのたびに悩まされているのが実情です。

この号でも何を書こうかといういろいろ考えたのですが、結局、一つのお願いを申述べようということに決めました。

昨年、われわれの師 宇治正夫先生には、能楽における無形文化財保持者の指定を、文化庁よりお受けになりました。日頃から先生、底しれない芸域の深さに親しく接しているものからみれば、誠に当然であり、また遅きに失した感を禁じえないのですが、しかし他方、広く社会に、それが認められたということは、われわれ、先生に親しく御教示をいただいていたものにとって、大きな喜びであり、誇りでもあります。多くの会員諸氏は、このことについて既に御存じですが、或はまだお知りになっていない方もあらうかと思ひ

ますので、紙上を借りてお知らせしておきます。

ところで、わが神戸大学風韻会も、来年で創立四十五周年になります。その間、いろいろ迂余曲折はありましたが、一貫して、宇治先生の熱心な御指導のもとに発展してまいりました。そして前会長藤井茂先生のお骨折りによって、卒業生・現役学生一体の会として極めてユニークな結合を誇ってまいりました。春秋の学生の発表会には、いつも高商時代の大先輩から、卒業したばかりの若手先輩までの御参加を得、また、教官の方々の賛助出演を得て、有意義な時間を持つことができました。

しかしながら、よく考えてみますと、先輩と現役とが一体となつたいわば本格的な、「神戸大学風韻会総会」とでもいえるような会には、かならずしも従来持ち得ていたとはいえないように思われます。なにごんにも、卒業生の方々は全国的に散らばって活躍しておられますし、お仕事の関係上、謡から離れ又遠ざかってしまわれた方も少なくないようです。こういった事情から、先輩・現役の交流も、現役学生の発表会を機に、比較的近隣の先輩方の御参加を得るにとどまっています。

四十五周年を好い機会として、なんとか先輩・現役の互乗交流の輪を格段にひろげ、強化することはできないものだろうか。これが

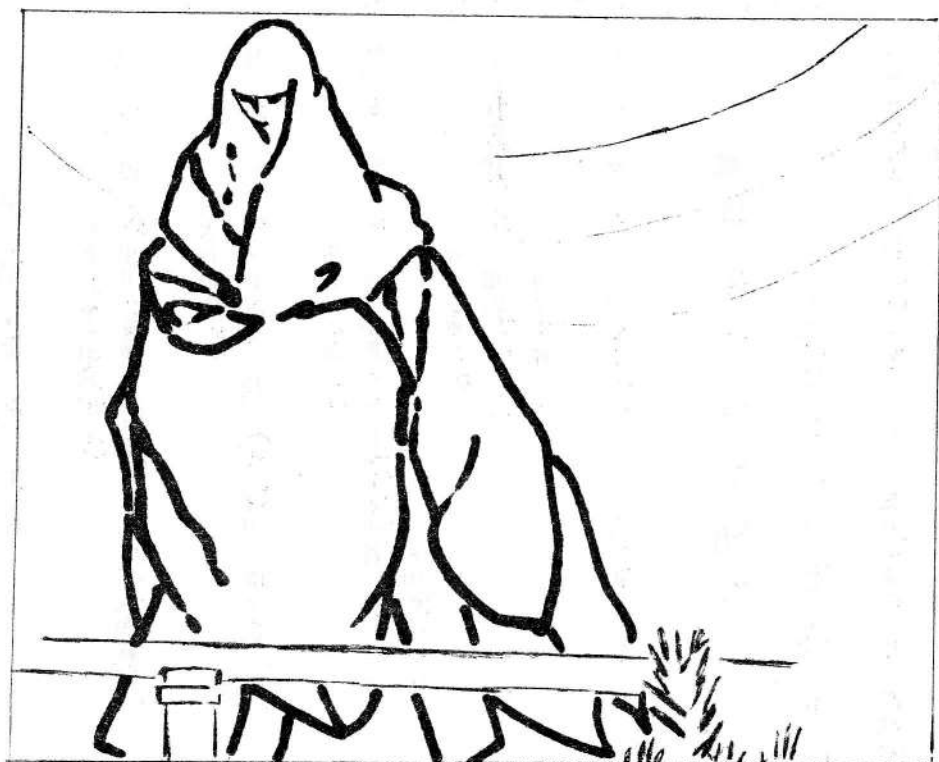
現在の学生諸君の強い願いであり、また、宇治先生はじめ、藤井前会長、そして私の願望でもあります。それにはどうしたらよいのか、会員の皆様の卒直な御意見をうけたまわれれば幸いです。

私など弱者ものが申すまでもなく、謠、それに能楽は、一生自分で楽しめるだけでなく、人生経験を積めば積むほど、ますますその味わいは深まって行き、同じ曲を何度繰返そうと、その度に新しい世界をみることができるよう思われます。このようなものは、あまりほかにはないし、それだけに経験豊かな先輩と現役との交流の意義は一段と大きいと思われるのです。

風韻会創立以来、御承知のように、母校も大きく変りました。神戸商業大学、神戸経済大学といった旧制国立単科大学時代よりも、新制国立総合大学時代の方が長いのです。当然会員の方々にも単に経済・経営・法といったいわゆる凌霜関係だけでなく、医・理・工・文・教育といった学部の学生・卒業生の方々も増加し、最近では、むしろ、こういった方々が大多数であり、いまや総合大学のクラブとして確立されているといってよいでしょう。

以上のような意味を含めて、この際、文字通り 神戸大学風韻会強化することが必要であり、また有意義であると考えます。

貴重な紙面を借りて、お願いのようなことを申述べましたが、御検討下されば幸いです。



// // // // // // // // // //
 // // // // // // // // // //
 // // // // // // // // // //

先 輩 登 場

東京風韻会発足の お知らせ

昭和三十一年 里 井 三千雄

今般、大学時代 宇治正夫先生（風韻会主宰）に観世流謡曲を稽古した風韻会OBの中、東京在住有志で「東京風韻会」を結成しようという事になり、去る一月十一日（日）、東京凌霜謡会の安村慶次郎氏のご紹介により、新宿区西大久保の出光寮で、左記番組により発表した。

当日は、昭29〜32年卒の仲間九名（内四名欠席）で、人数は僅少であったが、卒業以来廿年振りで、出席者各位も、平素練習稽古もしていないので調子が揃うのか甚だ心配したが、さすが宇治先生に鍛えられた仲間だけあって、始めて見ると結構朗々たる名調子（？）で意を強くした次第で、日頃のストレスを発散して誠に愉快な一日を過した。終了後、新宿歌舞伎町の中国料理「獅子林」で舌鼓を打ち、学生時代の想い出話に花が咲き、午後九時散会した。次回は八月に「夏仙会」を開催の予定。在京の風韻会有志 是非ご参加あれ。

御申込みは幹事 横浜市神奈川区旭丘三十二番地 住銀社宅
 十五号 里井三千雄 TEL〇四五―四八一―〇九六迄

素 謡 番 組

東谷 晟（31管）

高 砂 里井三千雄（31法） 大角征矢（29経）

大角征矢

屋 島 和田 実（31法） 里井三千雄

里井三千雄

能 野 牧 千雄（31管） 東谷 晟

牧 千雄

小袖曾我 和田 実 和田 実

東谷 晟

猩 々 大角征矢 里井三千雄

風 韻 会 の 思 い 出

昭和四十五年 中 島 克 己

「風韻会」……この三文字を書くのも久振りである。学生時代は、この三文字ほど度々書いた文字はなかったであろうのに。即ち、新

入部員勧誘用のピラに、番組編成に、そして又、寄附金集めの際の領収証にと、この誇り高き三文字を書かせて貰った。お陰で今だにこの文字だけは間違わない。

もう九年以上も前のことになってしまった。十年ひと昔、というから、9、10昔のことである。岡山の片田舎から憧れの神戸大学に入学し、右や左をキョロキョロしていた私を、風韻会の先輩諸氏の、一見温厚そうな笑顔が取囲み、なんとなく部室で、声を張り上げられされたのが病みつきとなってしまい、それ以後、四年間、私と風韻会とは切っても切れない間柄になってしまいました。酒のうまさも、タバコの味も、又マージャンの怖さも、皆、「風韻会」より学びかつ、たたき込まれる毎日。肝心の謡曲の方は、今考えると随分、おろそかになつていた様な気がします。

園遊会で恒例の串カツ店「狸タツ」を開き、つまみ食いした時の、あのうまかったこと。そして終了後、部室にて、冷酒と、冷カツ（？）で打上げ式を行ったことなど今でも、当時の光景をはっきり思い出す。部室の外は、とうに暮れて真暗というのに、薄す暗い裸電球（今でもそうですか？）の下で円陣を組み、主にワイ歌を合唱。というより乱唱しつつ、騒いだことは楽しき思い出のひとつです。当時、四回生の先輩で、素足の美を強調される余り、大学には四季を通して、ゲタしかはいて来ないという、大変愉快な方がおられました。このA先輩は、必ず、こういう宴たけなわとなつてくると、スックと立上り、右手を前にさし出して、「宣誓!!」と来たものがある。そして後は、例の名調子で「先人力強く営める……」の宣誓句をブチ上げ、寮歌の合唱となったものであるが、これが又、新米

であった私には、この上なく魅力的に映り、その後、この宣誓句を憶える為、舌をかむような目があったことがありました。今考えてみると、私が「風韻会」にいた四年間には、部員に非常にユニークでかつ又、楽しい人が多く、練習に行くのか遊びに行くのか、私自身、判らないようなところが、あった様です。宇治生夫先生には、はなはだ頼りなく映られたのではないかと、赤面の至りである。

そう言えば、今の私の伴侶にも、学連を通じて知り合ったものであり、彼女は今では、一歳の息子の世話に引回される毎日である。酒もタバコもマージャンも、そして又、妻までも、すべて「風韻会」より派生した様なものである。ただし「風韻会」は私にとって人生の出発点であり、かつ又、思い出の宝庫なのであります。

記念謡会のこと

昭和40年 段野 治 雄

卒業後十年が経過した。日頃各地で忙しくしている仲間が一緒に顔を合わせることもなかったもので、なんとか都合をつけて、五十年八月九日、有馬の古泉閣に集まった。四十年卒の近藤・黒田・武田・戸次・段野と夫々の家族総勢十八人となった。ゆっくりと温泉につかったあと浴衣姿にて謡会開催。旅館はたまたま団体客なく我々に大広間を開放してくれた。見所には夫々の妻女と子供達。一時のはじらいもたちまち消え、夢中で謡う。みんな変わらない豪快な声だ。高砂・屋島と続いたところで賑やかに食事。最初その日に五番を

謡うつもりだったが、みんな卒業後謡ってないだろうからと二番で止めようとした。ところが食事後もっとやろうと意見一致。一杯気嫌で井筒・百万・葵上と予定を消化した。しかし聴き手は正直なものの女房子は悲声に恐れをなしてか途中から姿を消した。懐しい友と共に汗びっしょりに謡い込んで皆満足の様子。その後は常道マージャンの時間。やれない私も助人付で仲間に入れてもらった。夜もふけて子供は寝入り、女房達は脇でおしゃべり。

翌日は、ロープウェーを乗り継ぎ六甲山を越え、阪急六甲にて解散した。今度は五年後の再会を約した。

我々五人の内、近藤・黒田・武田の三君は昭和電工・椿本チェーン・東洋信託のサラリーマン、戸次君は会計事務所経営、段野は家業の昆布屋。今謡をやっているのは、根っからの謡好きの戸次君と、時間的なやりくりのつけやすい段野と二人のみ。最初の三人は卒業時に中断している。やはり勤めている以上は、仕事に全力を注ぐのが当然だ。お互い頑張りた。しかし仕事の他に何かしてみたいなという時がくれば、謡を思い出して思い切っってやりなほしてはどうか。そしてやると決めたら一歩一歩上達する様努力する。毎日の五分十分の稽古が大切と、宇治先生から教えて戴いているが、これがなかなか実行できない。でも週に十分間でもいいではないですか。卒業生の皆さん、今一度謡をやりなほしてみませんか。



秋

風韻会の部室状況

——先輩からの御質問にお答えして——

風韻編集部

中島さんからのお便りの中で、「薄す暗い裸電球」が現存しているかどうかとの御質問がありましたので、その事を交えて、少々、風韻会の部室活動の現況について御報告致します。(私達、現在の部室が何時頃から出来たものかよく存じませぬので、既に御承知の事ばかりになるかも知れませんが……)

部室は、六甲台の校舎が、次々と新築、改造されてゆく中で、相変らずの昔のたたずまいで、六甲台グラウンドの南面のバックネット裏の棟の西端に存在しております。間取りは別図にも掲げた如く6・2畳のタタミの間と、十二畳の板の間の構成です。一時、部室拡張の朗報もあったのですが、結局はお話だけで終わってしまいました。問題の照明装置ですが、現在は、板の間と六畳の間は蛍光灯におきかえられております。しかし勿ら、玄関と二畳の間の照明には依然として裸電球が活躍しており、印刷等を行う時は、この独特の色調の光線のもとの作業となる訳です。

冬の夕暮れ等、下の方から階段を上ってゆく時(部室は六甲台で最も高い所にある訳ですから)この部屋の光と共に、聞き覚えのある声が聞こえてきますと、何とはなしにホッとした気持ちになるものです。火気厳禁の部室はポカポカと暖い訳でもないのに……。

活動日は、火・木・土曜の週三日間は風韻会。月・水・金曜は

御集會にどうぞ

六甲パーラー

六甲団地西
TEL 861-6890

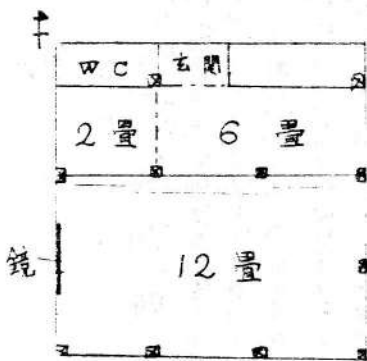
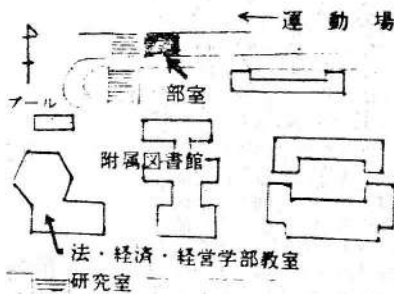
蚊なんです。緑の木々の中で育った蚊は、非常にたくましくて、さされるととってもカユイのです。しかも、丈夫な口をもっているらしく、靴下の上からです。シャツの上からでも時には喰いついてくるのです。クラブの誇る秘密兵器〇〇蚊取センコウが出勤すると、あゝ夏だなあと、鼻と身をもって感じる次第です。

夏休み中は、一応、合宿以外の活動は停止です。でも、合宿以前

宝生会（宝生流のクラブ）が使用という形式をとっています。これも先日、宝生会部室移転という案が文化総部で決まりかけたのですが、ダメになってしまった様です。残念無念……。土曜日には、宇治先生が部室にいらっしやいます。あの阪急六甲からの急な坂道を思うと、大層御骨折の事と感謝いたしております。

四・五月には六甲台全体が新緑に包まれ、一年のうちで最高の季節となります。クラブでも、新入部員が入って来、三大学・四大学の発表会も間近かとあって、練習にも思わず力が入ります。

七・八月一日差しは日増に強くなり、六甲台のグラウンドは砂煙が舞い上っています。その中で、何故か、風韻会の部室は涼しいのです。南から北へ部室を吹き抜ける緑の風の為でしょうか。但しこの風は涼しさと共に、多量の公害を運んで来るのです。そうです蚊なんです。緑の木々の中で育った蚊は、非常にたくましくて、さされるととってもカユイのです。しかも、丈夫な口をもっているらしく、靴下の上からです。シャツの上からでも時には喰いついてくるのです。クラブの誇る秘密兵器〇〇蚊取センコウが出勤すると、あゝ夏だなあと、鼻と身をもって感じる次第です。



に部室をのぞいてみると、「風のおと」（現在の学生風韻会の夏機関誌）の編集風景を時折みかけます。

秋は、秋期発表会に向けての練習期。日没が次第に短くなるのに反して、しばしば予定時間オーバーという事態も起こってきます。その反動か、六甲おろしの風圧に負けてか、果たまた後期の試験地獄に悩まされてか、皆さん自閉症の君になられる様です。しかし中には元氣一杯の人もおりまして、板の間で飛び返りばかりする余り、とうとう板をつき破ってしまったのです。穴は直ちに補修されませんが、おかげで床はつきはぎだらけになってしまいました。

以上が、およその部室の一年ですが、皆様の頃とは如何でしょうか。裸電球はまだあります。神戸にいらした時は六甲にいらして下さい。六甲にいらっしやったら是非風韻会の部室にもお寄り下さい。お待ちしております。

///
///
///
///
///
///
///
///
///
///
誌上研究室
///
///
///
///
///
///
///
///
///
///

能 舞 台

P 26 飯 田 寿 子

初 め て の 舞 囃 子

P 25 田 中 恭 子

「舞囃子を終えて」という題で書くつもりだったのですが、ただもう「終わった。」という感じしなくて、他は何もないのです。舞っている時は、夢我夢中で、いつの間にか済んでいたといったような。だから、一番いろいろと思ひ悩んでいたのは本番前ではないかと思ひます。

番組変更で、一時間ほども鏡の間でしたのですもの。他の方々に何かと励ましのおことばを頂き、自分でも落ちついてる様子を見ようと思うのですが、やはり気になって、胸はドキドキでした。途中で忘れてしまうのではないか。扇を落とさないだろうか。すべて転ばないだろうか。足拍子を間違えないだろうか。ほんとうに始まるまでの長かった事。そしてそれに比べて、舞っている時のなんと短かった事。今ではあの時が嘘のよう。

でも、私にとっての初めての舞囃子は終わりました。

能舞台は、何の飾り気もなく泰然とし、時間的空間を自由に移動している。私は、あまり経験はありませんが、能舞台で、現在と隔離している何かを感じる。それは、おそらく、能の発祥時代となるべく同様にしようとしているところから来るのかもしれない。ここに、イギリス人の偉大なるシェイクスピアという劇作家がいます。彼の作品は主に舞台のために書かれたものが多いようです。その舞台では、能と同様に、何もない舞台の上で話が展開されていくわけです。それを観客たちは、ある想像力を持って、つまり、時間とか天気、背景となる風景を考えながら見るということなのです。具体的に言えば、能舞台はみなさん御存知のことと思ひますので、シェイクスピア時代の舞台は、幕のない舞台が大きく前方に突き出ているのです。ですから、能の場合、観客は三方から見られるわけですが、シェイクスピア劇の場合には、これを三方から眺めることになります。こういう舞台構成は、観客の中の舞台という考えから始まっているのではないかと思ひます。今日のような額縁舞台と異なる、演者と観客とがすぐにも一体化できるという要素を両者は含んでいる。この点で、能舞台の無限な広がりといったものを感じる。さらに前述したように、背景にしばらくいないということから、映画のように自由に場面を転換することができるスピーディさも考えられる。あえて、無理もせず、演劇（能もそれらのひとつと考える。）の本

質を、これらは射ているようです。

仕舞の型について

P 26 中井ますみ

入部してまもない頃など、〃サシ・開きをして〃などと言われても、しばらく考えて動作をおこしたけれど、ようやく動作がともなうようになってきた。そして型っていうのは便利だなあとつくづく感じてしまう。型は仕舞の共通語といった感じでもれにも通用するし、それに自分の考えをもちこんでゆけば、仕舞の出来上りである。だけど最近、人により、曲目により同じ型でも少しずつ変わっているということに気がついた。そのもともとの型をくずさないで、また、変な癖をもたないで、自分の感じた事を表現していくのは、まったく大変な事だと思う。仕舞を観ていて、その人なりに型をこなしている人を見ると感心してしまう。

能

L 26 田中明子

能に比して歌舞伎は、実際の形やすがたを備えている。さらに、それを誇張することにより、かえって真実味を感じさせる。観客は、少なくとも目と耳があれば楽しむことができる。

しかし、能は多分に抽象的である。外国人から前衛芸術とみなされる由縁もここにあるのだろう。

歌舞伎を散文にたとえるなら、能は詩に擬せられる。主観の入る余地が多いように見えて、切り込むことは難しい。だが、それが持つ感覚に浸ることができる。

サシ謡にもの申す

T 26 山岸国夫

五番とし吉野天人の節譜解説によれば、『サシの音階の上音は、普通音階の上音より半音低いので、普通音階に於いて、上音より中音（下げる場合とは趣を異にする。サシの上音と中音の音差は、普通の上音と中のウキの音差に略々相等しいから、上から中のウキへ下げる心算で謡えば宜い。』とある。

つまり、サシに於いては、上音ー上ウキー中ウキは実際には、サシ上音ー普通上音（サシ上音ウキ）ー中音となるわけである。

今までの練習では、サシ上音を普通上音でやってそのまま中落しを中ウキにやっていたが、これでは普通、次に出てくる廻しが意味を持たなくなってくる。この廻しの後半を無理に下音に落とすから、次の中音は先ほどの音（練習では中ウキ、実際では中音）と異なってくる。又、中落しの次に中ウキー上音ー上ウキなどと、あまりに高くなりすぎて苦しくなってしまう。

このようにサシ・カカル類では、今のように普通上音で通すとす

れば、謡の音階というのが音の高さの開きによるものであるからには、正確にいうと廻しの後半の音は下音より少し高くなるし、又、次の中音というのは先の音とは異なってくる。だからサシでは少々異和感が伴うのである。少々であるが故に今まで無視されて来たのか。

さてさて、あなたはそんな異和感を感じたことはありませんか。

舞囃子の地謡を終えて

M11 児島 新

関西学生連盟での舞囃子「敦盛」の学生地謡い決定の報告を受けた時、「これは大変だな。」と思った。しかし、クラブに入って初めて能を観に行った時から心引かれていた囃子と共演できるのかと thoughts、「よし、やってみよう！」という気持があった事も事実でした。宇治先生も「敦盛」という番組に、大分御心配下さったのですが、そこは向う見ずの私の事。とうとう「敦盛」の地謡をやる事になったのです。

練習一は、まず地割り。次にそのノート片手に「三ツ地」と「ツヅケ地」との聞き分けから始めました。やってみると不思議なもので、聞き慣れるに従って、聞き分けは次第に容易に素早くなくなっていったようです。テープは、先輩が以前発表会でやったものがあつた訳ですが、それを、休みの時は勿論、勉強中も、果てはトイレの中までもテープレコーダーを持ちこんで聞くといった具合に、

兎に角のべつまくなしに聞きました。囃子の手を何一つ知らない私は、丁度、物理の公式を知らずに問題を解こうとしている人間と同じで、答をまる暗記する以外に、成すすべを知らなかった訳です。

勿論、発表会までに三カ月以上あったのですから、その間ずっと宇治先生のお宅や、お稽古場にも、うかがっては、お稽古をつけていただいた訳です。宇治先生は「早舞の後の地」「一門皆々」。の謡い出しが、囃子と合わなくてはとおっしゃり、囃子の手を教えただきさつて何度も練習を重ねた訳です。キリ謡は、何度練習しても、どうもうまく乗れず、何度も直されましたし、正直のところ、発表会当日まで、囃子に耳を貸すどころか、自分の心の中で拍子をとるのに精一杯でした。結局、何一つ十分でないままに、申し合わせの日を迎えたのでした。

申し合わせ一ハ ホン ヤア ハ ヤア一ハ・ヤア一
笛のアシライが止まり、大鼓、小鼓も鳴りやんでしまいました。立って出たシテの袴の裾を直さねば、と気使ううちに、肝腎の囃子の手は、打切からもう次のトリ地まで進んでいたのです。一瞬、まっ青。謡い出すさっかめつかめぬまま、とうとう囃子の先生にお願いで、打切からもう一度やっていただくという軟弱な結果になったのでした。全く難しいものです。今までやって来た仕舞の地謡ならば、シテの動きにさえ注目しておれば、無難に地謡をこなせたものが、舞囃子では、囃子の音にも耳を傾けておらねばならないのです。そうして謡には、拍子はずす様な余分な廻し節一つあることも許されないのです。

クセも、もう一つ感じがつかめません。覚悟はしていたものの、八拍から次の一拍までの間の長い事。心配そうに大鼓の人の手を眺めながらの謡でした。「一門皆々」は練習の成果あってうまく出れたのですが、キリ謡に入ってびっくりしました。囃子がパッパッパンとすごい勢いで打ち始めたのです。予期せぬこの猛功に振り落されそうになり勿ら、かろうじて謡い終えた一日でした。

本番一クソ度胸と申しましょうか、居直りと申しましょうか、舞台上上ったとたん、本番前あのドキドキとした気持が消えさりました。クセ謡は、今までの中で一番声が揃っているのでは!? 感じるほどでした（実はメチャメチャあがっていたのかも知れませんが）ところがです。調子に乗ってという訳ではないのですが、キリ謡に至って、私は音の調子を高く取って見たのです。これが大失敗。音律を高くとった事で、声の高さと小鼓の高さが丁度あったのか、謡っていると小鼓の音が全く聞こえなくなってしまったのです。大鼓の音と、時折地謡前列の人の肩と肩の間から見える小鼓の人の手先の動きを頼りに、あとは心の中で手をたたいて心死に謡ったのでした。

録音を聞いて思いました。拍子だ。ノリだ等という前に自分の声から鍛え直さねばならないと。発表会が終わった後に、一先輩に言われた「初めから100%をねらうな。」という言葉が思い出されました。舞囃の地謡をやってみると、自分の欠点があらゆる面に出る様だ。だから私は心に決めたのです。「今度こそは！」と。

団体様でどうぞ

Tea room

ヴィオレッタ

席数 70席

TEL 841-9550

Ⅱ 27 岩崎 誠

雪の銀世界を見たことがありますか？

雪は無限の雄大さ、静けさ、けがれない美しさを秘めているように思える

そして一面真白な雪でおおわれた地面は、どこかへ行ってしまうたかのように消え失せている

また何のへんてつもない雪の一つぶが積もり積もってすばらしい銀世界を作る

こんな銀世界のだれも通っていない所を僕は一步一步踏みしめて歩くのが好きである。

それは何とも言えない満足感に浸ることができる
そんな雪っていいなあ!!

J 27 魚田 豊彦

それではテキストの七十一ページをお開け下さい。今日はクラブ活動の原則について、私達はクラブ員であり、クラブ活動に参加しております。そこで私達一年生がクラブで活動していくうえで、忘れてはならないことの一つに先輩の方々のありがたくも、もったいないお言葉を心から拝聴する必要があります。先輩方は私達の成長を心から期待し御指導して下さいます。ですから私達にとって上級学年の先輩は先生にあたります。そこで初心にかえって、先輩のお兄様、お姉様方に朝お目にかかった時は、「先生、お早うございます。」と大きい声で。帰る時には、「先生、さようなら。」と丁寧に挨拶をすることによしまししょう。そうすることによって、私

達は平穩に社会生活を営むことができるのであります。それでは今日はここまで。

P 27 黒川 昌代

一人ぼっちになると、いつも落書を始めてしまう。そこに鉛筆と紙さえあれば、いつでも始められる。それに私の場合に限って言えば、ストレス解消にも一役買ってくれる。思うに、こんな手軽でしかも楽しい遊びは他にはないのです。特に一人ぼっちの夜なんかには最適!! さあ、みなさんも始めてみてはいかが?!

A 27 井戸 正二

僕は フーテンの寅さんが大好きです

僕は 燃えよドラゴンが大好きです

僕は どてらい男が大好きです

僕は 少女フレンドが大好きです

僕は 愛媛県の松山が大好きです

僕は 松山の永井睦子が大好きです

僕は ものすごく睦ちゃんが大好きです

幹事学年就任にあたって

L 26 田中明子

幹事学年と聞きますと何よりも先に、教える立場であるというところが、実力不足ゆえの自責から困惑を伴ない浮んできます。またこのように書いていましても、根が楽天家なものですから、どうにかなるかもしれないと過ごしてしまうようにも思えます。

しかし、下級生に、「教わるのはいやだ。」と言われるようになると困りますので、せめて迷惑な存在にならないように努力していきたいと考えております。

私事

J 26 今井基博

クラブは、学生にとって、特に、私にとっては唯一の交際の場であり、学生時代においては最良の人間形成の場であると思う。私はクラブ活動が大好きである。中学、高校時代もよくやった。しかし、現在はクラブと勉強との両立という深刻な問題をかかえている。中学、高校時代はさほどこのようなことは問題でなかった。それはクラブに対して今ほど真剣でなかったからかも知れない。

今、私は微々たる時間をも惜しんで六法を開かねばならない状態にいる。が、好きな酒を先輩、同輩、後輩と飲みに行きたいし、練

習の帰り喫茶店にでも入って、ゆっくり雑談もしたい。しかし、現在の私にとっては、こういうものを切り捨てるべきなのだろうか。週三回の練習と必要最小限のことをすればよいのだろうか。私は幹事長。クラブ員の先に立って指導していかねばならない立場。クラブ員相互との意思の疎通が必要なのだ。私は悩む。つき合いが悪いと言われるのも非常につらい。嗚呼、からだが二つあれば！

幹事学年になるにあたって

P 26 中井ますみ

少しずつ少しずつ責任の重みが3年の肩から2年の肩に移ってくるのを感じるこの頃です。だけど実際には何一つ満足にやれず暗模索といった感じです。先輩の人達がちゃんとやってこられたのは感心するばかりです。未だ、幹事学年という言葉がピンときません。幹事学年っていうのは表に出ることも多いけれど、クラブの陰の働き者なのだと考えています。できるだけのをやりたいと思っております。

時間と私

P 26 飯田寿子

一年の頃、「〇時」に集合、ということばを聞く。そしてその時間に行ってみると数えるくらい。なーんだと思う。そういうくり返しに何度か会う。そうしてだんだんと時間にルーズになってしまった。遅れた時もあったと思う。しかし、そんなに遅い方ではない時がある。これならだいたい〇時〇分までに行けばまあまあだと思

つてしまう。これは、クラブだけではなく、授業でもそのことが言
えている。もっと正確にと思うが、ためなのです。

無 題

T 26 山 岸 国 夫

一年の頃はヨカッタナ。ただただ吸収出来るもの求めて、あたかも
も吸い取り紙のように、六甲台の部室へ御百度。それもアッという
間に過ぎ去った感じ。光陰、矢の如し。

二年、小言、説教の連続かな。まあ、こっちも少々（かなりかな
？）文句を言わせてもらったが。おかげで子守歌のごとく聞けるよ
うになったよ。こうなりや蛙の面に水。いくら言われようとも、右
の耳から左の耳へ。頭に残るは、今まで自分の手でつかんだ体験的
クラブ観のみ。

さてさて、これも時勢に逆らえば、日の目を見ることもなし。そ
れでも、ちっちゃな抵抗はするよ。わかってくれる奴、見つけに今
日も六甲台までランニング。

—————

いやはや、なんともわびしい限り。

P 26 松 本 恵 子

「若いときには特に自分から進んで仕事を見つけてくれない気持
ちでなくてはいけない。」とよく母が言います。実際母はいまでも

メンズの本格派をめざす

MEN'S SHOP
JEAN SHOP
PORISHI

神戸市東灘区御影本町2丁目
TEL 821-6307

そんなバイタリテイあふれるよう
な所があり、そこが私の尊敬する
点でもあるのです。私もそれはす
ばらしいことだと思えますし、私
もそうなりたいと思うのです。で
も今の私は与えられたものでさえ
満足に消化できていないのです。
母の言葉大切にしていきたいと思
います。

大衆酒場

コンパにどうぞ

ぜい六

市電六甲口下ル西角
電話 (851) 4787

鍋物・一品料理

コンパ・・・4名様より 40名様OK

一松

六甲くみあいマーケット前
TEL (078) 821-4859

|| 三年生のページ ||

無駄意

「……、……、……、ガチャリ!!」

「オッスノ」

「アッノ お前か、何か用か?」

「うん、ちょっと話があるんや。三ノ宮に出えへんか?」

「ええで。何時や。」

「うーん。5時半でどうや。いつものとこ。」

「よっしゃ。」

「……」

「おいこらノ この道右か左かまっすぐ行くんか!!」

「……ええ?」

「ああ、まっすぐや……。すまんナ。」

翌日

「お前、昨日よー酔とったなあ。べろんべろんやったで。」

「ほんまか? そいで俺どないして帰ったん?」

「お前、覚えてへんのか……!?!」

*

「やっぱりバラードはコレトレーンやで。」

「そうかなあ?」

「ちゃうかなあ?」

「こればかりは好みやからなあ。」

「そう、ロリンズもええけど……。……。」

「俺とお前は趣味全然ちゃうな。ほんま。」

「ああ、どっちかという俺の方が高級やな。」

「何!!」

「お前、ウニ食わへんくせに偉そうに言うナ!!」

「お前こそ、トマト食わへんやんか!!」

「……」

「所で、この前エリックドルフィーのラストデイト聞いたで。」

「久しぶりに心身ともにしびれたわ。」

「そやろ、ありゃ最高や。」 ……三ノ宮某ジャズ喫茶

*

「ああ、やっと終わったナ。しんどかった。」

「ほんましんどかったデ。」

「けど、合宿やから、しんどいんあたり前ちゃう?」

「そやノ そのとおりや。」

「そやけど、あれやろ、ほら、今回は割合涼しかったやんか?」

「うん、それに昔はもっと厳しかったんやろ?」

「最近、練習でも何かこう、厳肅さが足らんのとちゃうか?」

「ああ」

「先輩は厳しかったもんナ。僕らの一年のときなんか、練習中ニ

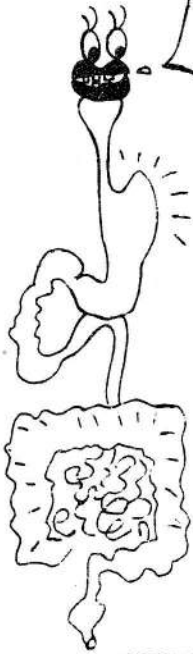
コリともしはらんかったもんナ。」

「なつかしいナ。」

「……」

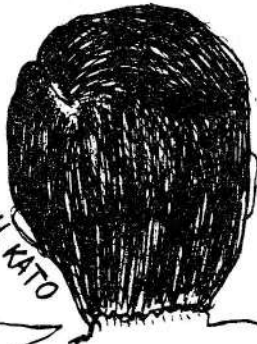
……合宿の終わったあと、三ノ宮の某喫茶店で恒例の反省会

よねんぜいの



風韻会のえくぼ
しめ 鏡をみること
のみ はやく大きく
なりたいゾ

風韻会の玉三郎
しめ チントラケン
のみ チントラケン
△



風韻会の
加藤剛
しめ 女の子を動かす
のみ 加藤コンパレ
をつくるゾ

しめし 皆さん
よくやりますー!



好評のよねんぜい
再度登場!!



風韻会の
コマンダー
しめ 風韻会
のよねんぜい
のみ 風韻会
の主人になるゾ

// // // // // // // // // //
 アンケート報告
 // // // // // // // // // //

..... 風韻会の実態

神戸大学アンケート調査委員会

最近、風韻会に対するクラブ意識が次第に変ってきたのではないかと各先輩方に御指摘を受けることが多くなってきたのは事実である。部員一人一人にはおのおの独自のクラブ観があらうと思われるけれども、もう一つ目的意識がはっきりしていない者も自分を含めて多くいるのではなからうか。

こんな疑問を昨年始めから持ち出し、しからは風韻会会員の方々は如何なる動機でクラブに入部され、又現在、「能」にどれ程の関心をお持ちになっておられるのかを知りたく、将又、先輩の一部の方々に神戸大学風韻会会員制移行という御意見をお持ちの方がおられ、他の会員の方の御意志もお聞きしたく、「風韻十五号」をお送りした際、全会員を対象としたアンケート調査を特別に設け、四年生を中心とした委員会を中心にして実施した次第である。

このページの下段はその時のアンケート内容をそのままの形であげると同時にその結果も旧、新回生に分けて掲示してありますのでその心積りで御覧願えれば幸いです。

アンケート

- あなたの性別は 男性 女性
 - あなたは何回生の御卒業ですか。
新・旧 () 回生、又は特別会員 ()
 - 神戸高商、大学時代に学生サークル風韻会に入部された動機は？
 話をやりたいと思って 人間交流 上級生・友人に勧誘されて
 他に何もすることがなくただなんとなく
 その他 ()
-
- | | | | |
|---|--|--------------------------------|---------------------------------|
| 旧 | <input type="radio"/> 11人 57.9% | <input type="radio"/> 2人 10.5% | <input type="radio"/> 3人 15.8% |
| | <input checked="" type="radio"/> 15人 37.5% | <input type="radio"/> 5人 12.5% | <input type="radio"/> 15人 37.5% |
| 新 | <input type="radio"/> 0人 0% | <input type="radio"/> 3人 15.8% | |
| | <input checked="" type="radio"/> 1人 0.5% | <input type="radio"/> 4人 10.0% | |
- 御卒業後も話、仕舞を続けておられますか。
 はい いいえ
- | | | |
|---|--|---------------------------------|
| 旧 | <input type="radio"/> 9人 60.0% | <input type="radio"/> 6人 40.0% |
| | <input checked="" type="radio"/> 13人 32.5% | <input type="radio"/> 27人 67.5% |
- 4の質問で①と答えられた方、その理由を簡単にお書き下さい。又よろしければ②と答えられた方も ()
 - 御卒業後も毎年能を観に行かれますか

	㊦いいえ	㊧1～2回	㊨3～5回	㊩6～10回	㊪それ以上
旧	4人 2.5%		6人 3.75%	2人 1.25%	1人 3.75%
新	18人 4.6%	13人 3.25%		8人 2.0%	1人 1.5%
旧	3人 1.6.8%				
新	0人 0%				

7. 御卒業後、神戸大学風韻会主催の謡会などに来られたことは

㊦ない ㊧1～2回 ㊨3～5回 ㊩6回～

旧	7人 4.3.8%	5人 3.1.2%	2人 1.2.5%	2人 1.2.5%
新	12人 2.9.3%	15人 3.6.8%	12人 2.9.3%	2人 7.0%

8. 今後も発表会などの諸行事に参加しようとお考えですか

㊦はい ㊧いいえ

旧	6人 4.6.0%	7人 5.4.0%
新	23人 6.2.1%	14人 3.7.8%

9. 8の質問で㊦のいいえとお答えになられた方、その理由をお書き下さい。

()

10. 先輩の一部の方々に神戸大学風韻会を会員制にしてはという御意見をお持ちの方がおられます。

この会員制の場合、従来通り定刊誌「風韻」をお届けすることはもちろんのこと、その他謡会諸行事に積極的に御参加いただけます様御案内申し上げます。なお今までの様に御寄付をいただく代りに、一定の会費を毎年徴収させていただきます。この方式に対して先輩の御意見は、

㊦賛成 ㊧反対 ㊨従来通り

旧	3人 2.7.3%	0人 0%	8人 7.2.7%
新	19人 4.8.7%	0人 0%	20人 5.1.2%

11. 御卒業後、同輩との交流は

㊦ある ㊧ない

旧	9人 6.0.0%	6人 4.0.0%
新	31人 7.5.6%	10人 2.4.4%

12. 学生風韻会に対する御意見、御感想は

()

神戸大学風韻会アンケート調査委員会

◇ 返答数 57通 返答率 2.7%

◇ 返答者構成… () は女性数

旧回生	新
1～10回 …… 6人	1～5回 …… 5人
11～20回 …… 6人	6～10回 …… 7人
21～23回 …… 4人	11～15回 …… 11人(1人)
	16～20回 …… 11人(2人)
	21～22回 …… 7人(5人)
計 16人	計 41人(8人)

今回のアンケート返答者は57名であり、返答率27%とあまり芳しくはなかった。アンケート調査が会員方々の多忙時にあたり、この様な結果になったのであろうか。

返答者の年代構成を調べてみると、総合大学以前とそれ以後の者を旧・新として分けると、その比率は約3対7になる。そうして風韻会全会員も偶然にも旧・新3対7であり、絶対的な返答率は低かったものの、粗野ではあるが、風韻会全般からの意見ともこのアンケート結果をみる事ができると考えられる。

では、これからアンケートの各項目について検討していきたいと思う。

1・2の質問結果は前の返答者構成の通りであるのでここでの説明は省略することにして、3のサークル入部動機である。この項目では旧・新の明白な意志相異が存在していることがわかる。つまり旧回生の方は④の謡をやりたいと思つて入部された方が断然多いのに対して、新回生の方は④が37.5%であり、④の比率が旧回生の方よりも低下している。現在の現役部員の入部動機もさらに④の勧誘を受けてという者が圧倒的である。そしてもう少し詳しく調べてみると、新回生1)5・6)10・11)15・16)20・21)22回生のうち、④を選らばれた比率はそれぞれ50・57・72・36・28%となっており、一端は謡をこころざして入部する者が増加したが、最近ではその割合は減少傾向化にあり、他に④の人間交流の目的で入部する者も案外多い。そうして、健康増進のために風韻会員になった方もおられるのである。以上のような入部動機の変化のために、クラブ自体への取組み方も異なるであろうし、よってクラブ体質の変遷も

当然の結果であるし、部員数停滞化の一原因でもあろう。

次に4の謡・仕舞を現在続けておられるかの質問に関しては④のいいえと答えた者が旧回生60%・新回生32.5%、④のいいえと答えた者が40%・67.5%であった。つまりアンケート返答者のうち、10名あたり4名が現在も謡を続けているのであるけれど、一見して旧・新回生のはいいえのパーセントが全く逆転している。このことは果して前質問3の入部動機と関連しているのだろうか。

つまり旧回生の方は入部動機として60%近くの人が謡をやりたいという項目を選択されていることからして、現在も謡を続けておられるのであろうか。

しかしこれも一概に言えず、新回生の方のうち、入部動機④と答えられて、4で謡を続けているとお答えになられてるのは37%しかなくていいない。

結局のところ、クラブ入部動機の如何に関係なく、学生中に謡に興味をさらに深く持たれた方が続けておられるようである。(下の表は参考としてあげたものであるが、同じ方が入部動機として複数返答されている。なおこの表は質問3・4返答から抜萃したものであるから注意して下さい。)

そうして、質問5に関連して、時間的に余裕ができればやりたいとおっしゃる

風韻会への入部動機

	1~5	6~10	11~15	16~20	21~22
④ 謡志望	3人	4人	7人	4人	2人
④ 交流	0人	0人	3人	2人	2人
④ 勧誘	3人	3人	1人	5人	4人

質問3・4との関連

	1~5	6~10	11~15	16~20	21~22
質問3④ 質問4④	2人	0人	4人	1人	1人
3④ 4④	1人	6人	3人	3人	1人

方もかなりあることも事実である。

このことを裏付けするごとくに 6の質問で、毎年能会に一回以上足を運ばれる方は全体の60.5%もおられることである。観能される方のうちでは、時間的なこと、職業上の理由から④の1〜二回が最も多かったのも納得できる。そうして、毎年10回以上と答えられた方が三人もおられたことに驚嘆したのである。

続いて今度は風韻会主催の謡会への現在までの参加の有無を聞いてみたのが7である。しかしこの質問は卒業年次の違う方々からのアンケートとしては不適當と思われるけれども、最近の謡会、発表会に於いては、荒川会長も言われているように、近隣の特定の先輩の参加、出席を得るに留まっている実情を數字化したものである。

一方、今後も発表会等への諸行事に参加するかという質問8に対しては、謡をやっておられる方の多い大先輩からの返答は参加を希望するものが46%、逆に謡を現に続けておられる方が32%しかおられない新回生返答者のうちで、参加したいという御意志が62%にも及んでいるという妙な結果を得た。このことはやはり、謡の持つ性質上、一人で充分楽しめることや、クラブ感、仲間意識の異なることなどによるものであろう。

現在、マンネリ化の呈を示しかけている風韻会活動に対するこれは一つの警鐘であり、今後の幹事運営いかんによっては、さらに多くの先輩の参加を仰げる大風韻会にとっての交流の場



風韻会員の山登り学生

随時

を持つことも可能ではないのだろうか。

		質問		回答	
		回	内容	回数	割合
21	16	1	イ	0	回
11	6	2	ロ	1~2	
6	1	3	ハ	3~5	
1	21	1	ニ	6~10	
11	11	1	ホ	10以上	
23	20				
10	5				
6. 毎年能会へ行かれるか					
3	7	6	2	3	1
4	2	1	4	2	1
2	1	4	1	0	1
0	0	0	0	1	0
0	0	0	0	1	2
0	0	0	0	1	0
7. 神大謡会					
0	2	4	4	1	1
6	5	3	2	0	3
2	2	3	1	4	1
0	0	1	0	0	3
8. 今後の参加					
7	8	4	3	4	2
1	2	6	3	1	2
				1	6
				イ	はい
				ロ	いいえ

一部先輩の御意見、つまり「新体制としての風韻会会員制」のことは、会員制賛成44%、反対0%、現行通り56%の結果となり、まだ会員制移行の機には至っていない様である。

最後に11の同輩の交流有無において、71%の方が「ある」と答えられている。全国的に先輩が御活躍されている現状を考えると、この「風韻」という小雑誌によって、大・小先輩・現役学生との紙面を借りた交流の仕方でもないであろうかと考えている。

自由投稿

ぼ。や。ま。

草 太 郎

私はクラブに入ってもう久しい。

ついこの間まで、新入生だったのに……
時の流れのはやさには、目が、まわるばかりだ。

この数年間にさまざまな経験をした。
楽しいこと、悲しいこと、つらいこと、色々なことがあった。

私はクラブから、さまざまな利を得た。

尊敬する先生、兄貴の様な先輩達、友人……

また、誰もなんとか楽しく練習でできるようになった。

仕舞は……、そのうちに、何とか……

まあ……、このことは私にとって非常に大きな利益だと思
う。でも、この利益は寝てて得たものじゃあない。

座っていても、おそらくは、得られなかったに違いない。

私は一年生のときから、よく先輩達に聞いた……

……いかにして先輩達、先輩達の先輩達がクラブに取組んだか。
そのとき、とっても真似はできないと思った。

今でもそう思う。「私は私なりの取組み方がある。」
だから、あえて人に対して自分のクラブ感を押し付けようとは思
わない。

黄金の穂を前に、
収獲するか否かは、
各人の自由なのだから。

75 スキーツアーだより

法学部のたかし君

数あるウィンタースポーツの中で、やはり花形はスキーといっ
ても過言ではないでしょう。白銀の中を美しいシュプールを描きなが
ら雄大な景色をバックに斜面をすべりおろる気分の良さ。スキーと
聞くとぼくはこれらのことが頭にうかんでくるのです。

ぼくは去年の十二月末、四年の児島さんの言い出しによって加藤
さん香西さん竹本さんそして一年の伏見君らとともに長野まで生ま
れて始めてスキーをしに行ったのです。期待と不安の入り混じった

気持ちで夜行列車の中で眠れぬ夜をすごしたばかりでしたが目的地に
着いてすでに雪がふっているのを見て、元氣回復。そこからバスで
どんだん奥地へ。見わたす限り純白の雪、雪、雪。ぼくは生まれて
このかた、あんなに多くの雪を見たことがなかったので、もうとに
かく感激して涙が出そうでした。(多少、オーバー)

宿泊所に着き、すでに他の人がすべっているのを見るとみんなも
前日寝ていないのなんか何のその、元氣はつらつ用意をととのえ、
いざゲレンデへ。最初はこわごわでスキートの板がいうことを聞かず
あっちでゴロン、こっちでドタリところがり身体中雪だらけ。でも
雪はさらさらで、天気もよく非常に気持ちよかったです。我々
が少し慣れたころ児島さんが「リフトに乗ってみよう」と言ったの
で、何も知らないぼく達は、ワイワイはしゃぎながら上へ登ったの
です。それからが悲劇。下で見るのと上で見るのと大ちがい、斜面
が急で、もうコウくてコウくて、とにかく生きて帰ろうということ
を合言葉に、伏見君と斜面にへばりつき
ながら、ゆるやかな所までおりてきたの
です。あんなにこわかったのは生まれて
始めてでした。でも、二日たち三日たつ
うちに、児島さんの名コーチで、ある程
度の坂もこなせるようになり、方向もま
がりなりにも変えられるようになってき
ました。こうなると、もうおもしろくて
たまらずリフトの使用回数も増え、すべ
りまくったのです。



スポーツ用品のことなら

御影スポーツ・センター店

神戸市東灘区御影本町4丁目7-17

阪神御影駅前

TEL (078) 811-6314

酒類
食料品

商 みどりや

神戸市灘区水車新田

(六甲団地下)

TEL(861)0535

スキーを終えての暖い部屋での食事、風呂そしてコタツを囲んで
のマジャンも非常に楽しいものでありました。
とにかくスキーというものは、多少危険な所もあるけれどその反
面スリルがあり、運動になり非常に楽しいものであるというのが、
ぼくの印象でありました。またスキーは高くつくと思っていたので
すが、いろいろ工夫すれば安く行けるといふこともわかりました。
思いきって行ってみて良かったと思っています。みなさんも機会が
あれば、思い切って、白銀の招く世界へ行ってみましょう。

五十年年度活動報告

幹事学年を終えて

幹事長 伏見 正章

この一年をふり返ってみますと、行事の連続で、どれもこれも、やろうと思ったことの半分も達成できなかったのでは、という気持ち胸の中に広がります。幹事長というものはできる限り無色透明の性格を持ち。クラブの屋台骨たる気持ちで運営できるよう心掛けねばならないと考えてきましたが、では、クラブの中心であったかと問われましても、非常に曖昧な答えしか出てきません。

この一年間、種々の問題が起こりましたが、その度に各人のクラブ感の違いというものを痛切に感じさせられました。各人各様、クラブというものに対する考え方がありますが、しかし、その取り組み方が積極的にしろ、消極的にしろ、クラブの構成単位としては、クラブ員全員、同等の立場にあります。クラブという集団から、享受するもののある反面、集団のために責任も果たさなければならぬと思います。そういう意識が、クラブ員に、十分に認識される必要があるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、宇治先生、荒川先生ならびに諸先輩の皆様

には、この一年、常に適切なる御指導、御助言を賜りました事を、この紙面を借りまして、心より御礼申し上げます。

副幹事長 香 西 千秋

過ぎてみれば、本当にあっという間だったように思います。幹事学年だから、がんばらなくては、これでもいいのだろうか、本当にいいのだろうかと思いつながら結局何もできないままに終わってしまったように思います。それでも、こんな私でも一応こここで、なんとかかんとかひっばっていったくれた他の幹事学年の人達には感謝しています。

結果的には、何もしいままに終わった一年でしたが、私個人としては、一年二年の時とはクラブに対する考え方もある程度、変化したように思いますし、クラブ内において、またそれ以外においてもいろいろな面で、良い意味にしろ、悪い意味にしろ充実した一年であったと思います。

渉外 小島 政章

原稿を書くように言われ、"今度こそまちがいはなく書こう"と思いい、"こう書こうか、ああ書こうか"といろいろ考え、"よし、こうだ"と思いい、原稿用紙をとり出す。いざ書こうとすると、"さて、こんなんでもいいだろうか"と思いいかえし、"いや、やっぱりこう書くん"と再び思いいかえし、わき目もふらずペンを走らせ、書き

終わってほっとする。改めて原稿に目をおし、「やっぱり、これじゃまずいなあ、書きなおそう」と思いたち、その前に煙草を一服とそこらを探しまわり、見当たらないでいららする。「今日はやめて、明日ゆっくり書こう」と思う。こんなことを四、五度繰り返して、提出期限が近づいてくる。「ああどうしよう」気はあせる。「ああどうしよう」が、決して人前では顔に出さない。いつも目を細めて笑ってしまう。

この一年こんなことばかり繰り返してきたような気がする。言うことばかり一人前で行動力は皆無。

「これではいけないんだよな、小島君!!」

渉内田中恭子

私にとつての幹事学年の初仕事は、クリスマスコンパの会場さでした。あれからもう一年が経ってしまいました。いろいろな事がありました。一番反省しているのは、観能会を二カ月に一度開くという事です。観能会実行委員という役になりながら、この一年の間に一回しか開くことができず、その上私自身、私的な事で参加できませんでした。この場をかりて、おわび申し上げます。

会計 広野 勢津子

会計ノートとわずかのお金を受け取って会計に就任してから、早や一年すぎようとしています。

決算報告書

自 昭和50年 1月 1日
至 昭和50年12月31日

入		出	
今期徴収部費	193,992	先生謝礼	136,000
大学援助金	45,000	三季大表	17,600
先輩寄付金	214,880	秋季発表会	111,930
“風韻”広告料	27,200	学連役員料	23,000
園遊会役員料	58,614	“風韻”印刷費	109,000
園遊会役員料	139,400	通信費	34,518
園遊会役員料	5,725	文具費	8,415
		文学連費	20,000
		四写大真代	29,000
		写大真代会	6,970
		歡送謡会	109,950
		園遊会支出	56,000
		雑支	28,947
			<hr/>
			681,330
		来期繰越金	3,481
	<hr/>		<hr/>
	684,811		684,811

ずぼらな私が、勤まるかしらと不安ではありましたが、何とか、赤字も出さずに終えることができました。

これも皆様の御協力のおかげと感謝しています。

また、就任中は顔をみれば、部費、部費と叫んでいましたが、これも役目とってお許し下さい。

学連委員 岡崎 啓子

幹事学年を終えた今、「安堵の胸をなでおろす」という気持ちよりも、「この一年間があっという間に過ぎ去ってしまったな」という感じがします。これは、私がこの一年間、何もせず、ただみんなに頼りきっていたからだと反省しています。

また、昨年同様、学連委員を担当しましたが、こちらの方も惰性でしていた感が多分にあり、私自身が学連活動に対して、あまり積極的でなかったことを申し分けなく思っています。

しかし今、学連は存在の危機にたっている時ですので、今一度みんなで学連存在の価値と意義を確め、その上で、義務意識や強制によってではなく、自主的な学連への参加及び活発なる活動を続けていってほしいと思います。

学連に出る

学連委員 松本 恵子

学連委員になってはや一年間が過ぎました。その間月並会、二年

生会、発表会などを通じて学連のこともようやく少しかわかってきたような次第でクラブと学連との橋渡しの役目も満足に果たせなかったように思われます。学連意識の高揚ということが言われてきました。今年もできずに終わってしまいました。また、「学連解体」ということがリーダーズキャンプでは討議されるようになった今、学連は大きな曲面に立っていると思います。ただ行事を消化すればいいというだけでなく、学連に何を求めるのか、連盟員一人一人が自覚して考えていかなければいけないと思います。今後とも学連に御協力をお願いします。

ケルン

本社 (078)841-0720

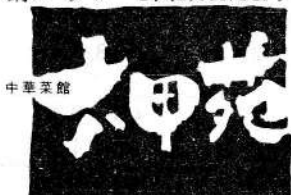
御影店・六甲店
本店・夙川店

女店員、アルバイト募集中

PM 5:00~8:00

宴会ホールも増えて広くなりました
忘年会、新年会、コンパにご利用下さい

宴会パック 1人2,000円より
鍋パック 1人2,000円より



阪急六甲駅北側 2. 3. 4階
TEL 821-4868・851-6970(代)

あしあと

昭和五十年 度

六月

- 一日(日) 学連月並会 於仁川ビクニックセンター
- 七日(土) 新入生観迎コンバ 於六甲バーラー
- 十五日(日) 四大学合同ハイキング 於六甲山
- 二十二日(日) 学連春季大会 於大槻能楽堂
- 二十七日(金) 古典芸能発表会 於学生会館六階ホール

三月

- 一日(土)～七日(金) 春合宿 於兵庫県津名郡五色町
- 十六日(土) 歓送謡会 於学生会館六階ホール

舞囃子「雲林院」(河野) 「高砂」(浦田)

「富士太鼓」(横山) 「敦盛」(寺本)

宇治先生をはじめ、荒川会長、藤井前会長、豊島、伊藤、長尾、原、松岡、大良、山本、段野、高島、河野、佐伯、志智、小田、山口、志岐、横山諸先輩が出席して下さった。

七月

- 六日(日) 四大学合同発表会 於上田能楽堂

八月

- 五日(火)～十二日(火) 夏季合宿 於兵庫県美方郡美方町城山

河野、木村、志智、横山諸先輩が参加して下さる。

十一月

- 十五日(土)～十六日(日) 園遊会模擬店出店

於六甲台キャンパス

四月

- 十九日(水) 四年生慰労ハイキング 三井寺から山科へ。
- 十一日(金) 新入生オリエンテーション 於学生会館六階

五月

- 四日(日) 第十九回三大学交歓謡大会 於朝陽会館

十六日(金)～十八日(日) シュニア合宿 於摩耶山天上寺蓮華院

十二月

十四日(日) 学連秋季大会 於上田能楽堂

舞囃子「敦盛」(田中)

二十日(土) 謡納会 於六甲台部室

クリスマスコンハ 於金剛山(三宮)

〃 幹事長就任にあたって 〃

J 26 今 井 基 博

此の度、若輩ながら、私が幹事長を引き受けることになり、その責任の重さを今さらながらに痛感している次第であります。

さて、本年度の運営方針と致しまして、先ず第一に「厳しさ」、第二に「技術的向上」の二点を考えております。何分、非力ゆえ、十分な事は出来ぬかも知れませんが、部員と共に力を合わせ、風韻会の発展のために力を尽くすつもりであります。

つきましては、宇治先生はじめ、顧問教官並びに諸先輩方に、宜しく御指導御鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

以上誠に簡単では御座いますが、幹事長就任の挨拶にかえさせていただきます。

新 役 員 紹 介

幹事長	J 26	今井 基博
副幹事長	P 26	飯田 寿子
渉外	P 26	飯田 寿子
会計	P 26	中井ますみ
学連	P 26	松本 恵子
文総	T 27	岩崎 誠
	T 26	山岸 国夫

昭和五十一年度主要行事予定

3/1(月) ~ 3/7(日)	春合宿
3/14(日)	民宿「よど荘」兵庫県津名郡五色町
3/16(火)	歓送迎会 於学館ホール
4/1(木) ~ 5/30(日)	四年生慰労ハイキング
	新一年生勧誘
	オリエンテーションに参加

カリフォルニア ファッション ショップ

リバティ

阪急六甲駅山側 駅前ビル B 1
TEL (078)881-6402



TEA PARLOR
FIRENZE

TEA PARLOR
FIRENZE

阪神御影駅前 TEL 811-8384 (IF)

5/3 (月) ~ 5/5 (水)
5/末
5/末
6/初
7/4
8/初
11/末
12/末

旧三商大合同発表会

新一年生歓迎ハイキング

強化合宿 二年主催

新入生歓迎コンパ

四大学合同発表会

夏合宿

秋季発表会

於神大学館ホール

学連秋季発表会

クリスマスコンパ

伝 言 板

・宇治先生 日本能楽会員に

なられる

・広瀬典子(旧姓三崎)さん御結婚!!!

・東京風韻会 結成 会員募集中

・風韻会男性復帰

新入生 男子六名、女子三名

結果

男子十五名 女子十三名となる

・就職決定

中川 憲一氏 住友金属

寺本 博行氏 長谷川工務店

加藤 久佳 関西電力

木村 升治 教員

森 章子 教員

オールレディス・バーテンダーのサントリー会館で
愉快地飲みながら、天下國家を論じ、平和を築こう!

洋酒センター

サントリー会館

神戸・三宮生田筋(金剛山地下)
TEL. 神戸(078) 321-4902

営業時間 土・日・祭日 PM4.00→AM1:00
平日 PM 5:00→AM1:00

●アルバイト歓迎(御世話下さい)

朝鮮料理・中華料理

金剛山

スタミナ補給に
神戸名物金剛山の焼肉を!!
家族連れから大宴会まで
懇親会・忘年会等予約承ります。

三宮・生田筋

TEL代表(391) 1000・(331) 5561~4

！！！！！！
編集後記
！！！！！！

ここに「風韻」第十六号をお届け致します。発行に際しまして、原稿をお寄せ頂きました皆様方にまずもって深く御礼申し上げます。「風韻」が、諸先輩と現役学生によって構成されるクラブ誌という観点から、今年は、「各学年のページ」を設け、全員参加の形をとってみました。又、昨年皆様からお寄せいただきましたアンケートの結果が出ましたので、それも掲載致しました。

本の編集がこんなにも大変な仕事とはノと思う気持で一杯の現在の私です。編集に対する甘い態度から、中途半端な個所を多々生じさせました事を、お詫び致しますと共に、来年以降のよき先輩諸兄の御協力、御指摘をお願い致します。

年々歳々花あい似たり、年々歳々人同じからず……。早いもので風韻会という三文字を耳にしてからはや四年間がたちました。その間、風韻会くんは、ムツツリ、ニコリはしましたが、決して私達を裏切りませんでした。今私達は、その頼り甲斐のある学生風韻会くんとお別れしようとしています。対等に話し会える日を夢みて。

編集委員

児島 新
加藤 久佳
木村 升治
森 章子

雑誌からコピー印刷まで……

昭和51年 3月28日 印刷
昭和51年 4月 1日 発行
発行所 神戸大学風韻会
神戸市灘区六甲台町

印刷所 みなと出版印刷株式会社
神戸市灘区浜田町2丁目5の3
電話 821-8331(代)

みなと出版印刷(株)

阪神新在家下車東150米高架下12-11
TEL(078)821-8331代

事務・製図(用品)・スチール製品・碁・将棋(盤)
書籍・雑誌(古書買取)・はん・ゴム・印刷

小牧文具書店

阪神御影駅前
TEL(078)851-3286・841-9024



本店 六甲本通り TEL 851-2096
高羽常盤木バス停前 851-4512